

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

—— 藤原成親（大納言）は、平氏に捕らえられ、部屋に押し込められてしまった。 ——

後ろの方より、足音の高らかにしければ、「すは、ただいま我が命を失はん」とて、「もののふどもが

参るにこそ」と待ち給ふに、入道みづから板敷高らかに踏みならし、大納言のおはしける後ろの障子を

さつと開けられたり。素絹の衣の短からかなるに、白き大口踏みくくみ、聖柄の刀おしくつろげて挿

すまみに、もつての外に怒れる気色にて、大納言をしばし睨まへ、「そもそも御辺は、平治にもすでに誅

せらるべかりしを、内府が身に代へて申しなだめ、首を継ぎ奉りしはいかに。何の遺恨を持ちて、この

一門滅ぼすべき由の結構は候ひけるやらん。恩を知るを人とは言ふぞ。恩を知らぬをば畜生とこそ言へ。

しかれども、当家の運命尽きぬによりて迎へ奉りたり。日頃のあらましの次第、直に承らん」とぞのた

まひける。大納言、「まつたくさる事候はず。人の讒言にてぞ候ふらむ。よくよく御尋ね候へ」と申され

ければ、入道言はせも果てず、「人やある、人やある」と召されければ、貞能参りたり。

## 語注

\*入道…平清盛。

\*聖柄…木のままの飾りのない刀の柄。

\*内府…平重盛を指す。清盛の嫡男。

\*貞能…平貞能。清盛の腹心。

\*大口踏みくくみ…大口袴（裾口を広く仕立てた袴）の裾を内側に丸め込んで履き

\*平治…平治の乱。成親は清盛の敵方に属して敗北した。

\*讒言…人を陥れようと偽って悪く言うこと。

問1 傍線部の現代語訳として最も適当なものを次から選べ。

ア 命を助け申し上げたのはどう思っているのか。

イ 命が助かったのはどう申し上げたらよいのか。

ウ 命を助けられなさったのはどうしてなのか。

エ 命が助かりなさったことをどう考えなさるのか。

問2 本文の内容に合致するものを、次から一つ選べ。

ア 大納言は、命を助けられたことについて平家に恩義を感じてはいなかった。

イ 入道は、内府が懇意にしていた大納言を、弁明次第では助けようとしていた。

ウ 入道は、平家の運が尽きていないために大納言の計画が発覚したと考えた。

エ 大納言は、平家に刃向かおうとした計画を認めながらも、必死に助命を訴えた。

10  
復習

## 「平家物語」

名前

年 組 番

正答数

12

検印

## 文法 Q

傍線部①～⑤について、本文横の□に、敬語の種類・本動詞か補助動詞か・誰から誰への敬意かを補い、敬語の説明を完成させよ。

## 省略 Q

本文横の□に省略された語句を記せ。(本文中の語句で答えること。)

後ろの方より、足音の高らかにしければ、「すは、ただいま我が命を失はん」とて、「もののふどもが」

主語  
は

から

1

参るにこそ」と待ち給ふに、入道みづから板敷高らかに踏みならし、大納言のおはしける後ろの障子を

さつと開けられたり。素絹の衣の短からかなるに、白き大口踏みくくみ、聖柄の刀おしくつろげて挿

すまみに、もつての外に怒れる気色にて、大納言をしばし睨まへ、「そもそも御辺は、平治にもすでに誅

からへ

せらるべかりしを、内府が身に代へて申しなだめ、首を継ぎ奉りしはいかに。何の遺恨を持ちて、この

一門滅ぼすべき由の結構は候ひけるやらん。恩を知るを人とは言ふぞ。恩を知らぬをば畜生とこそ言へ。

しかれども、当家の運命尽きぬによりて迎へ奉りたり。日頃のあらましの次第、直に承らん」とぞのた

目的語  
を

から

まひける。大納言、「まったくさる事候はず。人の讒言にてぞ候ふらむ。よくよく御尋ね候へ」と申され

ければ、入道言はせも果てず、「人やある、人やある」と召されければ、貞能参りたり。

目的語  
に

からへ

## 単語 Q

波線部㊦～㊩の本文中での意味を答えよ。(活用する語は終止形の訳語でよい。)

㊦

㊧

㊨

㊩

☒ その他の覚えておきたい単語

誅す…罪人を死刑に処する。

く果つ…(動詞の連用形の下に付いて)くし終わる。すっかりくしきる。